

令和 6 年度

学校自己評価表（計画）

学校運営計画		
学校運営方針	1 生徒の自己実現と人間的な成長の支援 ・職員同士、生徒と教師、教師と保護者、学校と地域間などで良好な信頼関係をつくる。更に、説明責任を果たし、社会に開かれた学校づくりを一層推進する。 ・各組織が目標に対するコミットメント（結果責任）を果たし、更に学校を発展させる。 2 学校グランドデザインに示す「育てたい生徒像」の資質を備えた生徒の育成 ・進路目標を実現する学力と社会に貢献する幅広い教養を着実に身につけ、部活動などの生徒会活動を通じて充実した高校生活を送り、国際的な視野をもつ生徒を育成する。 ・校歌の一節「世は我が起つを待てるなり」の気概で、何事にも諦めず最後まで努力することができる、心身ともに健康で社会性のある生徒を育成する。 3 教育効果が最大となるよう、本校を支援する組織などとの連携 ・PTA、同窓会等の地域の人的リソースを活用し本校を支援する体制を充実させ、教育効果が最大限上げられる学校を目指す。	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。 ②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。 ③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。 ②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	①能動的に学習し、論理的思考力と個性的創造力に富む生徒 ②責任感をもち、自己実現のために努力する生徒 ③文武両道をめざし、積極的に学校生活の充実を図る生徒	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
<成果> 国公立大学合格者数は73名で前年同数であったが、卒業生に対する割合は39.9%で、前年比2.8ポイント上昇した。毎年31.7%→37.1%→39.9%と増えている。私立大学を含む合格者数はのべ387名、大学等進学者は154名で、達成率84.2%となった。継続的及び組織的な指導がより進路希望の達成につながると思われる。 部活動では、文武ともに顕著な成績を残した。 SSHの指定はIV期の採択がされ、研究開発課題名「海とエネルギーのまち柏崎から総合知を活用して課題を解決	各教科での校内研修を強化して、1人1人の指導力のさらなる向上を目指す。	・ICTを活用した個別最適な学びの場を普段の授業で展開する。 ・教員間の公開授業（互見授業）を行い、指導力の向上を図る。
	基礎学力の充実を図るとともに、生徒の希望する進路実現に向け学力レベルを一層引き上げる。	・週末課題を課すなど、家庭学習への取組をさらに強化し基礎学力の定着を図る。家庭学習時間の確保を目指す。 ・生徒の進路目標をより明確にしておくため、各学年に応じた効果的な進路学習・意識啓発活動を一層充実させる。 ・授業満足度や高校生活満足度を一層高める。 ・国公立大学進学希望者の現役合格80名を目指すとともに、難関大学合格者5名以上を目標とする。
	規範意識を含め基本的な生活習慣を確立させ、学習と部活動の両立はもちろん文武一貫を図り、心身ともに健全な生徒の育成に努める。	・部活動と学習の両立のため、職員の考え方の統一を図り、担任、顧問間の連携を密にして継続的指導を行う。 ・遅刻防止、服装等の指導を教職員の共通意識のもと、全職員で継続的に行い、基本的な生活習慣の確立を図り、問題行動ゼロを目指す。 ・いじめを起こさない取組を、計画的・継続的に行う。 ・不登校生徒等への組織的対応を学習し、強化する。

<p>する国際性豊かな人材の育成」に取り組んでいる。</p> <p>&lt;課題&gt;  ○今後とも教職員が、部活動と学習のあり方について、共通意識を持ち、生徒の指導を実践していく。  ○家庭や地域と十分な連携をとり、問題行動や不登校等を未然に防止する。  ○多くの中学生から進学先として本校を選んでもらうため、部活動やSSH等の柏崎高校の良い点を地域に積極的にアピールするとともに、地域の中高と連携し学力の向上を図ることに努める。  ○HP、学年だより等を活用して情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりを持続させる。  ○実施するSSH事業について、HPを活用して成果を積極的に発信する。</p>	<p>本校の魅力ある学校づくりを地域の方々に積極的にPRすることによって、地域から信頼される学校づくりを行うとともに、生徒募集に力を注いでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の魅力を伝える・・・直接地元の中学校に行きよさをアピールするとともに、中学教員や生徒、保護者に授業を参観する機会を作る。</li> <li>一般選抜の倍率が1.00倍を超える。</li> <li>ホームページの充実を図り、魅力をわかりやすく発信する。</li> <li>学校案内・体験入学・高校説明会を一層充実させる。</li> </ul>
	<p>スーパーサイエンスハイスクール事業を計画通り円滑に実施していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学等校外機関との連携体制を更に発展させる。</li> <li>SSH指定校や韓国の高校との交流を積極的に進める。</li> <li>各種コンテストへの挑戦を働きかける。</li> </ul>
	<p>働き方改革を更に推進し、各人がワークライフバランスの確立に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「県立学校における教員の勤務時間の上限に係る方針」を遵守する。</li> <li>学年・分掌内の業務分担の平準化を図る。</li> <li>ICTを活用し、業務の効率化を図る。</li> </ul>

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
<p>各教科での校内研修を強化し、1人1人の指導力のさらなる向上を目指す。</p>	<p>・ICTを活用した個別最適な学びの場を普及の授業で展開する。</p>	【国語科】ICT活用に関して科内で情報を共有し、効果的に活用できるよう授業内容の工夫・改善を行う。	<p>〃</p>
		【数学科】ICT活用に関する指導法について科内で共有を図る。	
		【地歴・公民科】ICT活用に関する指導法について科内で共有を図り、授業内容の工夫・改善を行う。	
		【芸術科】鑑賞や作品制作の場面において、学び合いと相互理解の学習を取り入れる。	
		【英語科】各自が自己の課題を発見し、生徒の英語力強化のために、学習ツールを活用する。	
		【理科】実施することが困難な実験・実習等についてICTを活用する。	
	【家庭科】調べ学習や発表の場面で活用し、情報収集、課題成果の生徒間の共有を図る。		
	<p>・教員間の公開授業（互見授業）を行い、指導力の向上を図る。</p>	【国語科】各学年、科目単位の担当者間で生徒の状況や学習進度について情報交換し、随時自己評価や授業互見を行うなど、生徒の学習が効果的に進むよう指導力の向上を図る。	
		【数学科】各学年の担当者間で連絡をとりあい、3年間を見通した指導計画を考え、指導方法の改善を図る。	
		【理科】随時指導状況を自己評価するとともに、公開授業等を行いながら科内で評価の共有をはかり、生徒の学力の把握に努め、到達状況に応じた授業の実施に努める。	
【英語科】教科担当者間での連携を密にし、個々の研修内容を共有したり、学期ごとの互見授業とその相互評価をしたりして授業改善を図る。			
基礎学力の充実を図ると	・週末課題を課すなど、家庭学習への取組をさ	【進路指導部】学年・教科と連携し、「1週間で21時間」の家庭学習に取り組めるよう指導する。「家庭学習時間調査」を適宜実施し、生徒の実態を把握するとともに担任の面談指導等に活用する。	

<p>もに、生徒の希望する進路実現に向け学力レベルを一層引き上げる。</p>	<p>らに強化し、基礎学力の定着を図る。家庭学習時間の確保を目指す。</p>	【1学年】進路目標を明確化し、家庭学習習慣の定着を促す。					
		【2学年】「1週間21時間」の家庭学習定着のために適宜実態調査、個人面談を実施する。					
		【3学年】生徒自身が計画的に取り組み、気づきや意識向上につながるよう促す。					
		・学年毎に平日放課後や長期休業中における組織的補習体制を検討し、実施する。	【進路指導部】学年及び教科間の調整を図り、進学補習も含めた組織的な計画を立案する。				
			【1学年】長期休業中に補習を実施し、基礎力の定着を図る。				
			【2学年】夏季補習を実施し、積極的な参加を促す。ハイレベルな進路先に挑戦しようとする意欲の喚起と学力の向上を図る。				
	<p>・授業満足度や高校生活満足度を一層高める。</p>	<p>【教務部】定期考査や各種学校行事などを含めた年間計画や月間行事予定にもとづいて、日々の教育活動が円滑に遂行できるよう、教務的な視点で学校全体を積極的にリードする。</p>	【1学年】月1回の学年会を通じて生徒の実態を把握し、適切な学習指導を模索、実践していく。				
			【2学年】定期的に学年会を開催し、学年所属の職員と情報共有をして生徒の実態を把握する。				
			【3学年】学年便り等で進路実現に向けて動機づけを行い、学校生活、各行事の様子や成果を保護者にも伝える。				
	<p>・国公立大学進学希望者の現役合格80名を目指すとともに、難関大学合格者5名以上を目標とする。</p>	<p>【進路指導部】進路ガイダンスや進路講演会を定期的実施し、受験期を自らの力で乗り切れる忍耐力や精神力を高める指導を行う。共通テストでは、1000点満点型での受験に粘り強く取り組むよう指導する。また、模擬試験を効果的に配置し、難関大志望者へは大学別模試の積極的な受験を勧める。</p>	【3学年】各自の志望動機をはっきりと定め、計画的に準備をし、最後まで粘り強く受験するよう指導する。				
			<p>規範意識を含め基本的な生活習慣を確立させ、学習と部活動の両立はもちろん文武一貫を図り、心身ともに健全な生徒の育成に努める。</p>	<p>・部活動と学習の両立のため、職員の考え方の統一を図り、担任、顧問間の連携を密にして継続的指導を行う。</p>	【生徒指導部（親友会係）】生徒一人一人が「右文尚武」を体現するために、部活動への積極的な参加を促し、全校で8割以上の加入率を目指す。		
【1学年】面談を通じて学習と部活動のバランスを生徒に提案するとともに、家庭や顧問との連携を図る。							
		【2学年】生徒や保護者との面談内容を部活動顧問とも共有する。					
		【3学年】学習と部活動との両立や部活動引退後の学習へのスムーズな移行を促す。					
<p>・遅刻防止、服装等の指導を教職員の共通意識のもと、全職員で継続的に行い、基本的な生活習慣の確立を図り、問題行動ゼロを目指す。</p>	<p>【生徒指導部（生活指導係）】「8:20着席」を徹底し、スムーズに朝学習に取り組めるよう、学年団を通じて指導していく。</p> <p>【生徒指導部（生活指導係）】「服装自由化宣言」の趣旨を集会等を通じて理解させ、学習活動にふさわしい節度ある身だしなみを心がけるよう指導する。</p> <p>【生徒指導部（生活指導係）】各種テストで不正行為が発生しないよう、担任やテスト監督による指導をその都度促す。</p> <p>【生徒指導部（生活指導係）】問題行動を起こした生徒に対し、丁寧な聞き取りやアフターケアを組織的、継続的に行う。</p> <p>【1学年】身だしなみや挨拶、清掃等、良識を育み、公共心が身につくことを目指す。</p> <p>【2学年】指示を受ける前に行動できるなど、自発的で規範意識の高い行動を促す。</p> <p>【3学年】周囲への気配りや感謝の気持ちを忘れず、自立した行動ができることを目指す。</p>	【生徒指導部（生活指導係）】「8:20着席」を徹底し、スムーズに朝学習に取り組めるよう、学年団を通じて指導していく。					
		【生徒指導部（生活指導係）】「服装自由化宣言」の趣旨を集会等を通じて理解させ、学習活動にふさわしい節度ある身だしなみを心がけるよう指導する。					
		【生徒指導部（生活指導係）】各種テストで不正行為が発生しないよう、担任やテスト監督による指導をその都度促す。					
		【生徒指導部（生活指導係）】問題行動を起こした生徒に対し、丁寧な聞き取りやアフターケアを組織的、継続的に行う。					
		【1学年】身だしなみや挨拶、清掃等、良識を育み、公共心が身につくことを目指す。					
		【2学年】指示を受ける前に行動できるなど、自発的で規範意識の高い行動を促す。					
		【3学年】周囲への気配りや感謝の気持ちを忘れず、自立した行動ができることを目指す。					
・いじめを起こ	【生徒指導部、いじめ防止対策推進委員会】普段からいじめ・からか						

	さない取組を、計画的・継続的に行う。	いを許さない環境をつくる。			
		【生徒指導部（生活指導係）】いじめ防止対策推進委員会と連携しながら、関係の生徒に丁寧にかつ継続的に面談をし、再発を防ぐ。			
		【特別支援教育推進委員会】「SOSの出し方に関する授業」や職員対象の「ゲートキーパー研修」を行い、生徒が悩みを相談しやすい環境を整える。			
		【特別支援教育推進委員会】週に1回、特別支援委員会を開催し、適切に情報共有を行う。			
		【生徒指導部（生活指導係）】生徒指導に関する職員向け研修を年3回開催し、多様な生徒への適切な対応を学習する。			
	・不登校生徒等への組織的対応を学習し、強化する。	【特別支援教育委員会】不登校対策として、校内全体での組織的な対応を図ると共に、入学時の早い段階から専門家による保健講話を実施したり、スクールカウンセラーとの連携を密にしたりしながら、心の健康維持に努める。			
		【特別支援教育委員会】特別支援委員会、いじめ防止対策推進委員会と連携しながら情報を共有するようにし、悩みを抱えている生徒に対して丁寧に対応していく。			
		【生徒指導部（生活指導係）】いじめ防止対策推進委員会と連携しながら、関係の生徒に丁寧にかつ継続的に面談をし、再発を防ぐ。			
		【教務部】『学校案内』の内容をより充実させ、本校の教育活動の様子や特徴などをわかりやすく伝える。			
本校の魅力ある学校づくりを地域の方々に積極的にPRすることに努める。	・一般選抜の倍率が1.00倍を超える。 ・ホームページの充実を図り、魅力をわかりやすく発信する。 ・学校案内・体験入学・高校説明会を一層充実させる。	【渉外部】PTA総会への保護者参加の拡充に取り組み、学校と家庭との協力体制を強固なものにする。			
		【教務部】ホームページやnoteの内容を充実させ、更新の頻度をあげ新鮮な情報を掲載する。			
		【生徒指導部（親友会係）】学校行事や部活動等の生徒の活動の様子を発信することで、ホームページやnoteの充実を図る。			
		【教務部】オープンスクールの内容をより充実させ、本校が志望校になるように中学生にPRする。			
		【SSH運営委員会】昨年度の経験を生かしつつ、今年度の事業が円滑に運営されるよう、また新規第IV期SSH事業が円滑に進むように企画調整につとめる。			
スーパーサイエンスハイスクール事業を計画通り円滑に実施していく。	・新規第IV期SSH事業の企画立案とともに、大学等校外機関との連携体制を強化する。 ・SSH指定校や韓国の高校等との交流を積極的に進める。 ・各種コンテストへの挑戦を働きかける。	【SSH部】SSH事業の中心となり、全校体制で組織的に活動できるよう、また新規第IV期SSH事業が円滑に進むよう企画立案する。			
		【SSH運営委員会】昨年度の経験を生かしつつ、今年度の事業が円滑に進むよう、企画調整につとめる。			
		【SSH部】SSH事業の中心となり、全校体制で組織的に活動できるよう、企画立案する。			
		【SSH部】日韓交流事業や様々な大会、コンテストへ積極的に参加するよう促す。			
働き方改革を更に推進し、各人がワークライフバランスの確立に努める。	・「県立学校における教員の勤務時間の上限に係る方針」を遵守する。 ・ICTを活用し、業務の効率化を図る。	【管理職】定時退庁日と閉庁日を、各分掌と年間行事予定を見ながら、バランス良く適切に設定する。			
		【管理職】適切に職員の業務の分担を見渡し、負担の多い職員に対して適切なサポートができるよう、分掌、学年の職員を指導する。			
		【安全衛生委員会】出退校簿における「月の時間外勤務時間」の多い職員数を共有し、勤務時間の遵守を進める。			
		【教務部】自動採点システムの利用を各教科定着化し、採点業務を効率化する。			
		【教務部】グーグルクラスルームによる情報の発信や、各種アンケートにグーグルフォーム等を活用して、アンケートの集計にかかる時間			

		の短縮につなげる。			
成果			総合評価		